# 日置谷地区 地域づくり懇談会 議事録

- **1 日 時** 平成27年11月24日(火) 19:00~20:05
- 2 会場 日置谷地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 31名

市側出席者 19名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、秋山総務調整監、高橋防災調整監、田中中核市推進監、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、久野地域振興監、竹氏経済観光部次長、高橋秘書課長

<青谷町総合支所>国森支所長、武田副支所長(司会)、秋田市民福祉課長、 山本産業建設課長

<事務局>馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主 任、國本協働推進課主事

# 4 中核市移行についての説明

(中核市推進監)※チラシに基づき説明

# 5 人口ビジョン・創生総合戦略についての説明

(企画推進部長)※チラシに基づき説明

# 6 地域の重要課題について

| 1 鳥取西道路建設に伴う地域の発展について

#### <地域課題>

鳥取西道路の建設に伴い、浜村鹿野温泉インター周辺では道の駅の建設が予定され、西地域にも工業団地造成が検討されているようだが、青谷地域の発展のために、どのような活用が考えられているのか。

#### <担当部局の所見等>

# 【都市整備部】

鳥取西道路の吉岡温泉IC(仮称)~青谷IC間については、平成29年度内の供用開始に向けて国土交通省により鋭意事業が進められています。

鳥取西道路の建設に伴い、平成25年度に鳥取市西商工会を主体とする地域の皆様から、 鳥取西道路に合わせた道の駅整備の要望が提出されました。これを受けて本市においては、 鳥取市西地域の振興とまちづくりの拠点づくり、全市的な観光振興や経済波及効果の向上 等を目指すため、平成26年度に鳥取市「気高道の駅(仮称)」整備基本構想・基本計画(案) を策定し、現在この案を基に、事業化に向けて国・県等の関係機関と協議・調整を行って いるところです。

本道の駅は、単なる「山陰自動車道利用者の安全確保のための休憩施設」だけでなく、「鳥取市の西の玄関口」になり、山陰自動車道の全通を契機とした多くの観光利用客の気

高・鹿野・青谷地域への周遊や、交流人口の増加に伴う地域の活性化につなげたいと考えています。

具体的には、本道の駅において、青谷地域を始めとした鳥取市西地域産の農林・水産の地場産品や加工品、和紙などの伝統工芸品の販売等を積極的に行ったり、周辺の各道の駅と連携した周遊ルートマップを作成したりすることが考えられます。

#### 【経済観光部】

鳥取市人口ビジョンで示したとおり、本市の人口は減少傾向にあります。将来の人口減少の抑制、克服を目指すためには、雇用の場を増やすことにより、若い方に本市に定住していただくことが重要と考えます。そのため、本市では雇用創造に向けて企業誘致はもとより地場産業の底上げや支援などに取り組んでいます。

このような中で、「交通インフラが整ってきた」こと、「災害リスクが低いこと」などが 評価され、近年は今までなかった大規模な企業誘致が実現しており、現在造成を行ってい る河原エリアの2つの工業団地も順調に分譲が進んでいます。

今後は、山陰自動車道鳥取西一青谷間が全線開通することによって西地域においても企業立地の優位性も増してくることから、企業誘致の動向も睨みながら山陰自動車道のIC付近での工業団地の整備も検討していきたいと考えているところです。検討の際には、地域の皆様や関係機関のご意見を踏まえながら候補地を検討してまいりたいと思います。

# (都市整備部長)

鳥取西道路の、(仮称) 吉岡温泉インターチェンジから青谷インターチェンジ間については、平成29年度内の供用開始に向けて建設が進められています。このことに伴い、平成25年度に、鳥取市西商工会を主体とする地域の皆様から、道の駅整備の要望が出されました。これを受けて本市では、鳥取市西地域の振興とまちづくりの拠点づくり、全市的な観光振興や経済波及効果の向上など



を目指し、平成26年度に、鳥取市「気高道の駅(仮称)」整備基本構想・基本計画(案)を策定し、現在事業化に向けて、国・県などの関係機関と協議・調整を行っているところです。

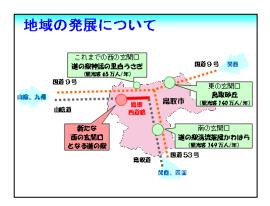
本市としては、この道の駅が、単なる「山陰自動車道利用者の安全確保のための休憩施設」だけでなく「鳥取市の西の玄関口」になり、山陰自動車道の全通を契機として多くの観光客に気高・鹿野・青谷地域を周遊していただくことで、交流人口の増加による地域の活性化につなげたいと考えています。

具体的には、青谷地域を始めとした鳥取西地域の農林・水産の地場産品や加工品、和紙などの伝統工芸品の販売等を積極的に行い、「神話の里白うさぎ」や「清流茶屋かわはら」といった、周辺の道の駅と連携した周遊ルートマップを作成することを考えています。

#### (経済観光部次長)

本市の人口減少を抑制し克服を目指すためには、 雇用の場を創出することで若い方に鳥取市に定住していただくことが重要だと考えています。そのため本市では、企業誘致を始めとし、地場産業の底上げや支援などに積極的に取り組んでいるところです。

このような中、無料の鳥取自動車道の開通や山陰 道の整備により、交通インフラが整ってきたことや、 地震、風水害などの災害のリスクが少ないといった



ことなどが評価され、近年では大規模な企業誘致が実現しています。現在造成を行っている河原地域の2つの工業団地についても、順調に分譲が進んでいます。

今後は、ここ青谷地域を始めとした西地域においても、山陰自動車道のインターチェンジ付近での工業団地の整備等を検討していきたいと考えています。その際には、地元の皆様や関係機関のご意見も踏まえながら取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

# (地元意見)

道の駅の場所は、ほぼ気高町に確定していると思いますが、そこに至るまでの経緯が何かありますか。例えば青谷町に設置する案などはなかったのでしょうか。

## (深澤市長)

道の駅をどこに設置するのがよいかについては、鳥取西道路の開通も踏まえながら、鳥取市西商工会を中心にさまざまな検討がなされました。青谷町に設置する案があったかどうかなどの詳細は私も承知していませんが、いろいろな議論を経て、気高町が案として挙がったと聞いています。

# (地元意見)

企業誘致については、河原町では18haを造成し、2社の企業が入ると聞いています。 報道によると、企業誘致により企業が進出することになっても、求められる雇用人数に 満たないという問題もあるようです。河原町の工業団地は人員が確保できているのですか。 西地域でも企業誘致を進めていきたいとのことですが、何か具体的な話はありますか。 あるならば、今後は雇用の目標も立てていかなければいけないと思います。

#### (深澤市長)

国土交通省からは、鳥取西道路の仮称吉岡温泉インターチェンジから青谷インターチェンジ間は、平成29年度中に開通すると伺っています。吉岡温泉インターチェンジから鳥取西インターチェンジ区間も、できれば一緒に通れるようにしてほしいと我々は何度も要請しています。うまくいけば同時に開通する可能性もあると思っていますが、少し時期がずれたとしても、早い段階で鳥取自動車道とつながります。

開通すれば、西地域に対する企業誘致の可能性も非常に高まると期待しています。幸い にも、鳥取市は工業団地が残り少なくなっています。河原町の山手工業団地には、自動車 部品を製造している株式会社イナテックが工場を建設中ですし、布袋工業団地にも、豆乳のマルサンアイ株式会社の工場が建設されます。新津ノ井工業団地には、飛行機部品を製造される今井航空機器工業株式会社が、来年2月の完成を目指して工場建設を進めておられます。

このように企業進出が進み、工業団地が残りわずかということになれば、可能性があるのは西地域だと考えています。今すでに具体的な案件があって進めていく、といった状況にはまだありませんが、企業誘致の話は日々、鳥取市に寄せられています。その時に合わせて、工業団地が提供できる体制を取っていくことが必要です。

西地域に工業団地の建設を考えていかなければならないのではないかといった話については、現在、具体的に市役所内部で検討しています。

なお、河原町の工業団地については、必要な人員を確保すべく、採用計画に基づいて採用を進めておられるところです。たしかに今までは雇用の創出が大きな課題でしたが、企業進出が相次ぎ、今度は優秀な人材をいかに確保していくのかが課題になっています。

地元におられる皆様はもとより、県外で活躍されている鳥取出身の方や、県外の学校に 進学されている方で鳥取で活躍したいと考えておられる方、勤め先があれば鳥取に帰って 来たいと考えておられる方がいらっしゃれば、素晴らしい企業が鳥取市に進出しておられ ますので、ぜひとも鳥取に帰ってきて活躍していただきたいと考えています。

# 2 防災行政無線デジタル化整備について

## <地域課題>

防災行政無線がデジタル化されると、戸別受信機がなくなり屋外スピーカーのみになると聞いているが、この屋外スピーカーでの放送が、荒天時に現状よりもよく聞こえるのか。また、現在放送している行政情報(行事のお知らせなど)がなくなると聞いているが、

各集落の放送設備との連結はできないものか。

# <担当部局の所見等>

#### 【防災調整監】

防災行政無線は、平成34年11月までにデジタル方式に移行する必要があり、本市においても、デジタルシステムの統合に向けて、国府地域を除く全ての総合支所管内のアナログ設備の更新を進めています。

青谷地域の防災行政無線は、平成27、28年度に屋外スピーカーの設置による整備を行う計画です。防災行政無線からの音声は、屋外スピーカーからの距離、地形や周囲の状況、気象条件等さまざまな要因によって聞こえ方が異なる場合がありますし、早朝や夜間、冷房などで閉め切った屋内にいる場合は、どうしても聞こえにくくなります。そのため、防災無線の放送が聞き取りにくかった場合でも、危機管理課からの放送については、あんしんトリピーメールの配信や専用ダイアル、パソコン、スマートフォン、CATVなどで、放送内容が確認できるようにしています。

本市では、防災行政無線の他にもテレビ・ラジオへの依頼放送、携帯電話の緊急速報メール、CATVデータ放送、あんしんトリピーメール、ホームページで防災情報の発信を行っています。また、必要に応じて広報車や消防団、消防署等による現地での巡回広報を

行います。

なお、災害時には、自らさまざまな防災情報を入手することが早期避難等の安全確保につながります。住民の皆様におかれましても、日頃から停電時も想定しながら、電池式のラジオ等も準備するなど、積極的な情報入手に努めていただきますようお願いします。

なお、デジタル化する防災行政無線は、各集落放送設備と連結することはできません。

#### 【地域振興監】

これまで支所の防災行政無線は、緊急時の防災情報の放送以外に、さまざまな行政情報の伝達や行政以外の関係機関・団体からの要請による地域情報の連絡に利用されてきました。

防災行政無線のデジタル化・本市一体化の運用に伴い、これまでのような地域独自の放送利用には一定の制限がかかってきます。行政機関からの必要な行政情報については、とっとり市報(支所だよりや市のHPも含む)や、CATVの積極的な利用、独自チラシの配布などで一層情報の周知に努めていきます。

その一方で、これまで支所の防災行政無線を利用して放送していた地域情報(資源回収や奉仕活動の協力など)は、これまでのような運用ができなくなりますので、各機関・団体の広報のあり方や情報の伝達方法について、引き続き研究していきます。

#### 【総務調整監】

本市では、情報格差解消の重要インフラとしてCATV網を整備してきました。

このCATVでは一般のテレビ放送の他に、データ放送を活用した電子掲示板等のサービスを活用して集落内や総合支所からのお知らせを視聴する機能を持ち合わせていますので、ご活用いただきたいと思います。

また、CATV線を利用した既存の集落放送設備との接続については、信号形態が異なるため、音声放送にはその他の専用機器の整備等が必要となります。

# (防災調整監)

防災行政無線は、平成34年11月までにデジタル化を完了しなければ新しい免許を更新できないため、現在整備を進めているところです。

鳥取地域と国府地域はすでにデジタル方式に移行しているため、残る7地域が対象になります。 設備の古い順に整備していく計画であり、青谷地区のアナログ方式の防災行政無線は昭和60年に整備したもので一番古いため、今年度と来年度でデジタル化を進めていくことを考えています。

防災行政無線デジタル化の整備計画(予定) 年度 工事兼域 事業内容 H26 デジタル化調査・設計 H27 (青谷) (音谷) S60 (鹿野・気高) H29 H2 H2 福部 H8 H30 (佐治・福部) 気高 H8 用瀬 H11 (用瀬・河原) H31

現在、皆様のお宅には戸別受信機が設置されていますが、デジタル方式に移行すると、 戸別受信機はなくなり、屋外スピーカーのみの放送になります。そのため、天気の悪い日 や、家の中で窓を閉め切っていると聞こえないのではないかというご指摘もあると思いま す。 防災行政無線は防災情報を伝達する一つの有力な手段ではありますが、これが全てでは ありません。防災行政無線で放送するのは災害のおそれがある状況になった時ですので、 同様の内容はラジオやテレビでも放送されますし、市の防災行政無線の放送内容が聞き取 れなかった時のために、放送内容を確認できる電話番号も用意しています。また、メール や市のホームページでも放送内容を確認できるようにしていますので、いろいろな情報入 手手段を持っておいていただくことが非常に大事になると考えています。

#### (地域振興監)

国府地域以外の合併地域の行政防災無線は、それぞれの町ごとに別々の周波数で無線運用してきており、防災情報以外にも行政からの情報や地域の情報を放送している実態があります。デジタル化以降は無線の周波数が一本化されるため、おのずとこれまでの使い方には制限がでてくることをご理解いただきたいと思います。

行政からの情報については、とっとり市報やケーブルテレビ、チラシ配布等で周知していきたいと考えていますが、地域の各機関や団体等などの情報をどう扱っていくかについては、引き続き研究していきたいと思っています。

# (総務調整監)

地域情報の伝達手段の一つとして、鳥取市が平成22年度から行っているコミュニティ データ放送についてご案内します。

当地区にはNCNが入っています。利用状況を確認したところ、総合支所の情報や地区公民館からの情報などをよくご利用いただいているようです。

NCNかぴょんぴょんネットのどちらかのチャンネルを選択すると、データ放送の画面が自動的に立ち上がります。その画面の「行政情報」を選択すると、鳥取市からのお知らせが確認できます。また、「地域情報」を選択すると「電子掲示板」が表示され、総合支所単位や地区公民館単位、町内会単位でのお知らせ等を文字として表示できます。

町内会の細やかなお知らせにも十分に活用できます。市に登録していただければ、すぐに使えますので、ぜひ一度、お試しいただきたいと思います。

鳥取市のケーブルテレビ加入率は72%ですが、青谷地域の加入率は市内で一番高く、91.4%です。したがって、ケーブルテレビを活用した情報伝達は非常に有効だと思います。

# 7 市政の課題等についての意見交換(フリートーク)

(地元意見)

本日の地域づくり懇談会の冒頭に、中核市移行の説明がありました。中核市に移行すると、保健衛生や福祉分野などを市が管理できるのだと思いますが、人口ビジョンで人口が減少していくとの試算がある中で、中核市に移行することが負担になるのではないかと思います。中核市に移行する必要があるのでしょうか。きめ細かい対応は可能になると思いますが、非効率的になりませんか。

#### (深澤市長)

なぜ今、中核市移行の選択をしなければならないのか、また、人口が減少する中で中核 市に移行すれば負担が増えるのではないかといったお尋ねは、よくいただきます。少し長 い期間を見据えながら、将来また人口が増加していくように取り組んでいこうというのが 地方創生ですので、人口ビジョンや総合戦略は10年先、20年先、あるいはもっと先を 見据えた取り組みになっています。

鳥取市はもとより、鳥取市を含む県東部圏域や山陰の東部圏域は、今後衰退していくという非常に大きな心配があります。人口減少に歯止めをかけることや、鉄道、道路などの交通インフラの整備や維持のことを考えると、今、中核市移行という選択をしなければならないと考えています。業務量の増加や、それに伴う職員の増加により、財政的な負担が増えるのではないかという心配もあると思いますが、中核市に必要な経費については、国から交付される地方交付税の中で手当てされます。また、移行の際に経費がかかりますので、そこについても支援してもらえるよう、全国の中核市移行を目指している市と一緒に、国に対して要望活動をしているところです。

中核市移行は、市民サービス向上につながります。また、鳥取市が県東部圏域のリーダー役となって牽引していくという役割が求められており、そのためにも必要な選択であると考えています。

# (地元意見)

人口ビジョンの説明に併せて総合戦略の話もありましたが、日置谷地区と鳥取地域を比較すると、明らかに人の流れに差があります。例えば、鳥取地域にはいろいろな工場や会社がありますが、日置谷地区にはありません。地区の住民は鳥取地域に勤務していて、日置谷地区では寝泊まりするだけという印象です。日置谷地区には農業従事者が多いのですが、今は農業も衰退してきているため、ここに住む必要がないというのが現状ではないかと思います。日置地区も同様だと思います。

地区内の人口が減少しているのに、鳥取市一本の戦略で中山間地域が進めていけるのか疑問です。

# (深澤市長)

鳥取市は、合併により非常に市域が広くなりました。その内、約92%が中山間地域であり、その面積の中に人口の約半分の方がお住まいになられています。そのため私は、中山間地域の振興をしっかり図っていくことが鳥取市全体の発展につながると考えています。

農業についても、TPPの問題や米価の下落など、さまざまな問題があります。また、 耕作放棄地は増加し、農業従事者の高齢化が進み、後継者や担い手も不足しています。

本市では、農林水産業を鳥取市の基幹産業と位置づけており、その振興に取り組んでいます。農業についても、一昨年「鳥取市農業振興ビジョン」を策定し、ブランド化の取り組み、販路の開拓や拡大などについて総合的に進めています。今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。

# (支所長)

今年、青谷町の皆様に「生活実態調査」へのご協力をお願いしました。すでに中間分析

が終わっており、日置谷地区や勝部地区では、バスに関する問題や買い物に関する問題が 挙げられています。鳥取市全体の総合戦略もありますが、青谷町版の総合戦略も作成して います。2040年には、青谷町全体の人口は約5千人になるという推計もあります。こ の推計等も踏まえ、青谷町の課題等を洗い出した上で、皆様と一緒に青谷町のことを一所 懸命考えていきたいと思っていますので、ぜひとも協力をお願いします。

# (地元意見)

本日もらった資料に、人口ビジョンや総合戦略のことが書かれているので、大筋は分かりますが、もっと具体的に知りたい時には説明会のようなことをしてもらえますか。

# (企画推進部長)

本日お渡ししているチラシは、大まかなことだけを書いています。とっとり市報11月 号にも特集を組んでいますが、内容は変わりません。人口ビジョンも総合戦略も、地区公 民館にも備えつけてありますし、ホームページにも掲載しています。

政策企画課内の創生戦略室が担当しており、ご希望があれば出前説明に伺いますので、お声かけください。

# (地元意見)

日置谷小学校には7つのクラブ活動がありますが、小学校のクラブに連動した部活が、中学校には2つしかありません。今の中学校は、スポーツをする環境としての受け皿がないと思います。今後、高校や大学に進学した後や、社会人になってからもスポーツを続けていくと考えると、中学校の3年間は成長の上で一番大事な時期だと思います。私の子どもは少年野球クラブに所属していますが、青谷中学校には野球部がないため、入学した時点で野球に対する情熱を諦めざるを得ない状況です。

何とか野球部を作ってもらえないかと校長に伝えましたが、少子化に伴って昔の校長が、 人数がそろわないために新人戦に出場できない状況が2年続けば廃部とする、という青谷 中学校独自のルールを決めたそうです。今までの生徒はこのルールに従ってきたのだから、 今後の生徒も従いなさいということだと思います。

青谷町はできるスポーツが限られてきています。そして、大学などで県外や市外に出ている人の中には、青谷町はスポーツができないから帰ってきづらいという意見もあるようです。

この現状を打破してほしいです。

#### (深澤市長)

私の個人的な考えになると思いますが、団体競技で人数がそろわなくてもクラブ活動が 存続されている学校もありますので、教育委員会に経緯を確認し、何らかの形で活動でき る方策がないか考えなければならないと思います。

# (副支所長)

この件については以前から伺っていますが、青谷中学校の生徒は現在約150人しかお

らず、その中で団体スポーツの運営が厳しいのも事実です。また一方で、青谷のスポーツ 少年団で野球が盛んであることも事実です。保護者の皆様の要望や熱意も必要かとは思い ますが、子ども達にしてみても、野球に限らず、さまざまなスポーツにチャレンジしたい という思いもあると思いますので、その辺りも十分に検討しなければならないと思います。

新人戦に2年続けて出場できなければ廃部という形も、一つのルールだと思います。決して校長だけで決定した話ではないと思いますので、その辺りをしっかり確認してから判断させていただきたいと思います。

また、中学校に入学されてから、小学校時代とは別のスポーツをされる人もたくさんおられます。たしかに、同じスポーツを続けることにより、将来、素晴らしく伸びる人もあると思いますが、中学校に入ってから始めたスポーツで世界的に有名になる方もおられます。現実に、中学生の時に卓球を始めて日本で最後の世界チャンピオンになられた方もおられますので、子どもにはいろいろな選択肢があるのではないかと考えています。

# (担当課補足:学校教育課)

市内中学校の中には、生徒数の減少や特定の部活動へ入部を希望する生徒の偏りが原因で、これまであった部活動の存続も難しい学校が増えてきています。このような現状において、少人数の学校同士で合同チームを組んだり、休部・廃部規定を設けるなどして各校が対応しています。

青谷中学校も部活動の存続が難しい状況にあり、以前から学校・保護者・生徒などとの話し合いの上で、秋季大会出場の最低人数に2年連続満たなかった場合には、休部を経て廃部という規定がつくられています。学校はこれまでも、野球に限らずさまざまなスポーツについて、部の新設を求める意見や相談を保護者などから受けてきており、その都度規定を設けた経緯や現状を説明しています。

部活動は、各学校で状況の異なる、限られた生徒数の中で行われるものですので、一つの部の新設は他の部活動や教育活動にも大きな影響を与えることになります。

よって、部活動の新設・改廃等は保護者・生徒や関係者を交えて話し合い、理解や納得を得ながら、教育活動全般を見据えて学校が決めていくことです。

教育委員会としては、学校の主体性を尊重しながら、その話し合いが適切に進められるよう、注視していきたいと考えます。

#### 8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

1時間という限られた時間の中でしたので、まだ十分ではない部分もあったかと思いますが、この地域づくり懇談会に限らず、皆様と膝を詰めて市政の課題についてざっくばらんに意見交換をさせていただくことを今後も大切にさせていただきたいと思っています。いつでも結構ですので、またお声かけいただければ大変ありがたいと思います。地域づくり懇談会以外でも、いろいろな形でご意見等をお寄せいただきたいと思いますし、ご不明な点や疑問な点がありましたら、お気軽にご一報いただきたいと思います。そういったことを大切にさせていただきながら、皆様と一緒になって、鳥取市の将来のまちづくりをしっかりと進めていきたいと思っているところです。引き続きよろしくお願い申し上げ、お

礼のご挨拶に代えさせていただきます。 本日は本当にありがとうございました。